

令和 5 年度 こども園（保育園）関係者評価  
施設評価シート

子育てセンターしばもと

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和 6 年 2 月 16 日（金） 9:30 ~ 11:00

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1 名 地域委員 1 名 保護者委員 2 名

【園の教育・保育目標】

「思い合うこどもたち」～いっぱい愛されて～  
1. 元気もりもり 2. 心きらきら 3. 遊びわくわく

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した  
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

令和5年度 重点目標 かがやこう じぶんらしく  
子ども一人ひとりを受容し、個々の成長発達に合わせた対応を職員同士で共有して学びを深めていく。  
子どもが生活しやすい環境、活動しやすい環境について職員間で学んだり話し合ったりして、環境整備をしていく。  
異年齢の交流活動や他機関との交流を、感染症に配慮しながら新たなものを職員間で話し合い、少しずつ展開していきたい。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価	評価理由	最終評価	評価委員から
<b>I. 目標の理解</b> 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	3	グランドデザイン、重点目標を理解し意識して保育は行っているが、グランドデザインの内容をすぐに説明できなかったり、言葉で説明することが難しいと感じている職員がいる。個人差があったため。	2	具体的な取り組みを現場が考える、どんなことをすれば目標を達成できるのか、どんな姿が目標となるのか、グランドデザインに具体性がない。保護者としてもどんなことをしてくれるのかわかるとよい。思いが職員ひとり一人違うため、園と家庭と一緒に育ていけるように立派な文がわかりやすくなるとよい。
<b>II. 教育・保育の計画性と内容</b> 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	3	「やってみたい」「どうなっているんだろう」など興味や疑問に思ったことを、保育教諭と一緒にやってみたり子ども同士で考えて試してみたりしながら、活動が展開できるようにしている。 衛生面では気を配り配慮しているが、感染症が蔓延した時期があり、十分だとはいえなかったため。 昨年度の評価の中で命の大切さについて触れる機会が少なかったとの反省をし、今年度は、意識し「飼育」に取り組んできたが、夏に偏り1年を通しての取り組みが難しかった。	4	しばもとの子どもたちを見ていて、45分間先生の指示なしで活動してすごいと感思った。充実した活動で子どもたちが育っていると感じた。命の大切さ等できていないことをスポットにあてるのはどうか？できていることが多くあるため認めていってよいのではないかと。
<b>III. 子どもにとっては</b> 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心行くまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る	4	地域の人たちと感謝や憧れの気持ちを持つまでの深い関わりは難しかったが、「お神輿」や「お店屋さんごっこ」など小さい子のを考えて参加できるように、子どもたちが提案してくれた。その提案を実現できるように、教育・保育をしていくことができた。一人ひとりの思いを大切に、寄り添うことができた。	4	子どもたちの声が上がったことを実践していることがすごい。個々をよく見てくれている。公開保育を見させてもらった時に、「これやっていい？」と聞く子がいなかった。先生の顔をうかがうこともなかった。自分らしく輝くとは、夢中になれること。たくさん認めてもらうことで活動ができ、先生がダメと言わず笑っていることが大切。

<p><b>IV. ファミリーにとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気軽に相談できる</li> <li>2. いつでも保育に参加できる</li> <li>3. 必要な情報が得られる</li> <li>4. 保育を通して地域に親しむ</li> </ol>	3	<p>保護者が子育ての悩みや相談等を気軽にできるように心掛けていた。満足度調査で「子育ての悩みや不安について相談に乗ってくれますか」の設問に対して、満足・ほぼ満足が94%であった。その反面、「もっとブログを挙げてほしい」や「子どもの様子を知りたい」とのご意見をいただいた。ブログは挙げているがクラスに偏りもあり、活動の様子も保護者にすぐに掲示し伝えることができていないため。</p>	4	<p>ブログは年間回数を事前に知らせてあげ、ブログ等手間がかかるものではなく、掲示が頻繁にあるとよい。迎え等の際、子どもと一緒に見ていて、会話もできている。</p>
<p><b>V. 地域にとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 誰でも親しく訪ねられる</li> <li>2. 園の内容がよくわかる</li> <li>3. 緊急の時頼りになる</li> <li>4. 子育てに夢がもてるように</li> </ol>	3	<p>子育て支援ひろばのご利用者も多く講座やイベントを行っている。ひろばに来所する子が少しずつ園庭に出て遊ぶことができるようになったが、園児と交流することはまだなく、ひろばの取り組みを職員が理解するまでには至っていないため。</p>	3	<p>外部との交流が途切れていて、まだ発展途上の状況にある。昨年との比較があると評価しやすい。(利用者〇〇%アップ、アンケートに〇をつけてもらうなど) うどん作りなどは、家でも話があがった。匂いや味、様子などよく覚えていて。</p>
<p><b>VI. スタッフにとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個性が活かされる</li> <li>2. 快適な職場づくり</li> <li>3. 生活や遊びの文化が伝えられる</li> <li>4. 視野を広げて自ら学ぶ</li> </ol>	3	<p>得意なことを生かしたり、提案したりし、子どもたちと一緒に楽しめるように教育、保育に繋がられた。コロナでいろいろな面で規制されてきたことが多く、その状況しか知らない職員もいるため、生活やあそびの文化を伝えていくことに温度差があった。今後アフターコロナで視野を広げ、職員間で共有できるようにしていく。</p>	4	<p>行事の伝承は、コロナ感染前の状況を知らないため、若い職員との温度差はあることは仕方がない。「こんなことをしたい」が、誰でも言える環境が大事。職員の思いが子どもに伝わる。子どもと同じように思いを出して、輝ける職場になっていることが大切となる。行事の伝承は家庭でも伝えられないので、園で行われることが大切。</p>